

平成18年度病害虫発生予報第1号

長崎県病害虫防除所長

【気象（平成18年4月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

< 予想される向こう1か月の天候 >

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。降水量、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は高く、3～4週目は平年並でしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

\* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	イネミズゾウムシ	-	やや少
麦類	うどんこ病 赤かび病（ <b>注意報第2号</b> ）	少 -	少 多
ばれいしょ	疫病 アブラムシ類	並 少	やや多 やや少
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	やや少（前年比） やや少 少 並	やや少（前年比） やや少 少 やや多
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 やや多 少 並	やや少 やや多 少 やや多
かんきつ	そうか病 （ <b>防除情報第1号</b> ） かきよう病 ミカンハダニ	並（旧葉） 多（旧葉） やや少	やや多 やや多 やや少
なし	赤星病 黒星病 アブラムシ類	並 並 やや少	やや多 やや多 やや少
ぶどう	黒とう病	並	やや多

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
果樹全般	クワゴマダラヒトリ (注意報第1号を継続) 果樹カメムシ類	多 やや少	多 やや多
茶	カンザワハダニ	並	並

【早期水稲】 ( )内は平年値 [以下同じ]

1. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

昨年はやや少ない発生であった。

【麦 類】

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(大麦・裸麦:発生を認めない。小麦:発生茎率2.4%、発生圃場率19.0%)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、大麦、裸麦では発生を認めなかった(発生を認めない)。小麦では発生茎率0.5%(1.0%)であった。

2. 赤かび病

平成18年4月14日付け、病虫害発生予察**注意報第2号**による。

【ばれいしょ】

1. 疫病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率1.4%)。

イ 4月1半旬~3半旬にかけて、降水量及び降雨日数が多く、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除は発生前から行い、発生を認めたら進展状況に応じて7~10日毎に薬剤散布する

イ 薬剤散布は、薬剤が下葉に達するように、十分量を散布する。

ウ 塊茎への感染を防止するため、圃場の排水対策を徹底する。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は1.8%(8.8%)、発生圃場率は29.2%(50.4%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【トマト】

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少(前年比)

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.0%(前年0.1%)、発生圃場率8.3%(前年25%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は伝染源となるので、早期に抜き取り適正に処分する。

イ 本病はシルバーリーフコナジラミとタバココナジラミバイオタイプQにより媒介されるので、圃場密度の低下を図る。また、収穫終了後は、媒介虫の分散防止につとめる。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.7%(0.9%)、発生圃場率は16.7%(48.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ハウス内の換気をよくし、湿度低下に努める。

3. 葉かび病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率3.3%、発生圃場率27.8%)。

4. コナジラミ類(外コナジラミ、シルバーリーフコナジラミ、オシッコナジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(1.9%)、発生圃場率は33.3%(25.6%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発すると、作物の生育が抑制されたり、すす病を併発するので早期防除に努める。

イ 訪花昆虫(ハチ)を使用するハウスでは、コナジラミ防除薬剤の選択に注意し、ハチに影響が少ない薬剤を使用する。

【いちご】

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉、葉柄では発生を認めず(発病株率0.7%、発生圃場率13.8%)、果実では発病果率0.1%(0.5%)、発生圃場率は7.4%(18.1%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率0.4%(0.2%)、発生圃場率は44.4%(21.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内の換気をよくし、湿度低下に努める。
- イ 伝染源となる枯死下葉、被害部を除去する。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.7%、発生圃場率12.1%)。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は11.8%(12.1%)、発生圃場率は48.1%(40.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。
- イ 薬剤によってはミツバチへの影響があるので、薬剤の選定に注意する。

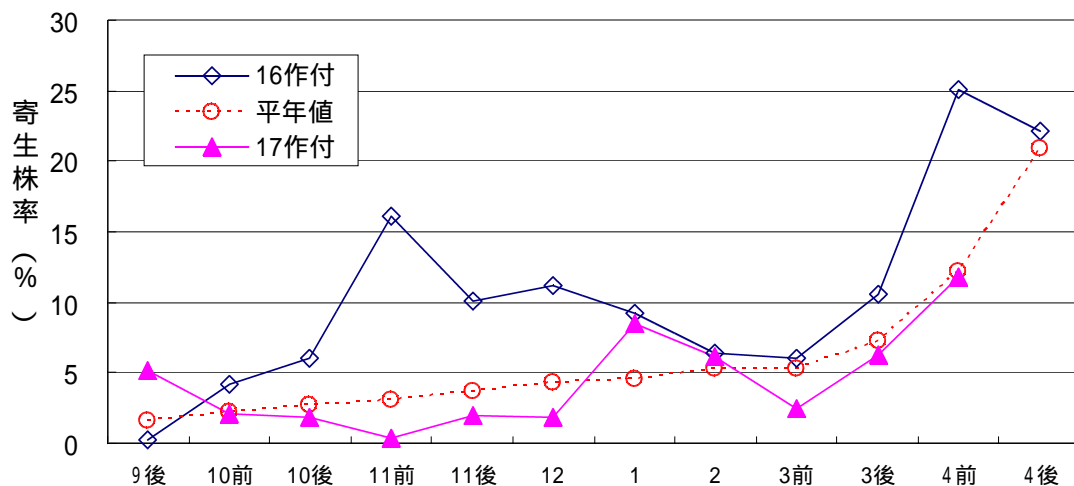


図 いちごのハダニ類寄生株率の推移(巡回調査)

## 【かんきつ】

### 1. そうか病

4月12日付け平成18年度病害虫発生予察防除情報第1号による。

### 2. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病葉率は1.4%(0.2%)、発生圃場率は35.9%(10.1%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本病に対する耐病性が弱い品種で旧葉に病斑が多い園では、新梢への感染を防ぐため展葉初期に薬剤散布を行う。

イ 薬剤散布に当たっては樹勢に留意する。

ウ ボルドー液は温州みかん以外のかんきつには登録がないので注意する。

### 3. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は0.4%(2.0%)、発生圃場率は15.4%(24.6%)であった。

## 【なし】

### 1. 赤星病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.7%)。

イ 県予察圃場では、平年(4月16日)よりやや早い4月13日に初発を確認した。

ウ 4月1半旬～3半旬にかけて、降水量及び降雨日数が多く、本病の発生に好適である。

#### (3) 防除上注意すべき事項

耐性菌が出現する恐れがあるので、E B I剤の使用は年間3回以内にする。

### 2. 黒星病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.8%)。

イ 4月1半旬～3半旬にかけて、降水量及び降雨日数が多く、本病の発生に好適である。

#### (3) 防除上注意すべき事項

耐性菌が出現する恐れがあるので、E B I剤の使用は年間3回以内にする。

### 3. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(寄生新梢率0.5%、発生圃場率21.5%)。

## 【ぶどう】

### 黒とう病

(1) 予報内容 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率6.9%)。

イ 4月1半旬～3半旬にかけて、降水量及び降雨日数が多く、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

耐性菌が出現する恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 【果樹全般】

### 1. クワゴマダラヒトリ

4月10日付け平成18年度病害虫発生予察注意報第1号による。

### 2. 果樹カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1～2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は1.6頭/m<sup>2</sup>(0.4頭/m<sup>2</sup>)と多かった。

イ 諫早市、多良見町、有家町のフェロモントラップでは、誘殺を認めていない。

(3) 防除上注意すべき事項

落葉果樹では発生を認めたら薬剤による防除を行う。

## 【茶】

### 1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

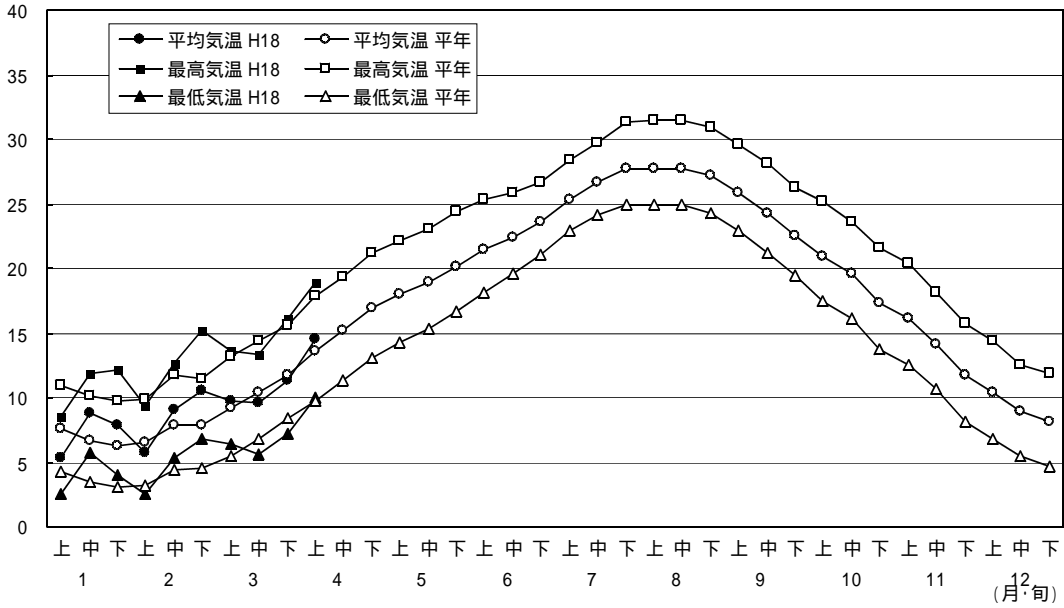
発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は1.0%(1.2%)、発生圃場率は25.0%(25.3%)であった。

( )

### 長崎市 気温



(mm)

### 長崎市 降水量と日照時間

(hr)

